

たわわ

TAWAWA

地域で生きる障害者を支える会通信

発行 2005年11月28日

61号

「地域で生きる障害者を支える会」会報

住所：横浜市港北区下田町6-31-8

活動ホーム「しもだ」内

TEL 045-562-3600

FAX 045-562-5991

障害者週間を機会に

私たちの意思表示を届けよう



「柿が赤くなると、医者が青くなる」というのはよく聞かれる諺ですが、今年は住宅街の庭でも柿が大豊作です。到来物の立派な柿も嬉しいのですが、さまざまな形をした庭先の恵みのおすそ分けも、ほのぼのとして、心をあたたくしてくれそうです。

咀嚼の不自由な障害者たちには、少しやわらかくなるのを待ってスプーンでいただくのが最高のデザート。嬉しい季節のとうらいでもあります。



さて、そんな小春日和ののどかな日常とは裏腹に、障害者自立支援法のまだ明らかにされきっていない不気味な“改革”は、私たちをとまどわせています。

支援費制度の導入では、「これからは君たち当事者が自分で生き方を選択できるんだ。」といわれ、慣れない用語や、計算や...、ようやく制度にもなれかけていた矢先、「計算違いだった」などといわれて国の制度に安心できるわけありません。「住み慣れた地域で安心して暮らす」ということが、そんないい加減な算定で考えられていたなんて。

かといって長年かけて少しずつ改善してきたことを逆行させるわけにはいきません。頼みは、横浜市です。これまでの状態を堅持できるよう、障害当事者や、支援をする人々が精一杯の意思表示を届けなければならないときだと思います。おりしも12月9日には横浜公園で障害者の日の集いがひらかれます。是非ご都合をつけて、参加してください。障害者の思いに触れるだけでなく、多くの人願っていることを具体的に知らせることが出来ます。



さて、先日も伝えましたが、横浜でもセイフティーネットプロジェクトが発足し活動が始まりました。12月の障害者週間に合わせ、コンビニや商店などに配る“知的障害者に対する理解を求めるパンフレット”や、会話の苦手な人とのコミュニケーションを助けるボードが出来ました。私たちの活動する港北区でもこれに連携し、社会福祉協議会が推進委員会を作ってアンケート調査を皮切りに、活動を展開していきます。

支援を必要とする人全てにとって安心できる街づくりのために力をあわせましょう。

より確かに障害者の生活を支援し続けるために

そして社会への働きかけにもいっそうの努力を



今年度第一回の総会で、長年懸案となってきた NPO 法人を目指して準備に入るということが決められました。その後チャリティーコンサートの取り組みがあったりしてしばらく間がありましたが、ようやく県庁の担当者と相談を始めました。これから、これまでの活動を踏まえ申請書にまとめていく作業にはいります。



なぜかえるの？

* 社会的にも責任のある形にかえます。

いま急速にいろいろな制度が変わる中、障害者、中でも重度重複の障害をもつ人たちは、生活をしていく上で、今後一層の困難が予想されます。しっかりしたバックアップ組織が必要です。

そんな中で、これまで多くの方たちに呼びかけ力を合わせてきた私たちの活動が十分生かされ、長く引き継がれていけるように、よりしっかりした活動にしていかなければなりません。総会では、次のような点が合意されました。

◇ 今後、障害者の親たちの高齢化に伴い、障害者の生活の見守りや、グループホーム支援をきちんとした形で整備しておく必要がある。

◇ 重度障害者のみならず障害者一般の地域生活が、まだ十分にノーマライズされているとは言えず、これからも社会や地域に働きかけてゆく必要がある。この場合、対外的に納得させ、支援者を増やしていくには、会が単なる“親や気心の知れた人たちの集まり”なのではないか、というイメージを払拭する必要がある。

◇ 非常勤の有償ボランティアなど事務を担う人を決めることなどにより、活動や運営を安定していきたい。



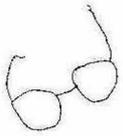
どうかわるの？

* 活動内容は、当面今のままで変わりません。

これまで続けてきた活動を、無理なく継続していくことが大切です。

1. グループホームの運営支援（運営委員会・事務局会への参加、人材の募集育成、地域交流イベントの実施）
2. 啓発・広報事業（「TAWAWA」たわわ通信の発行、写真展などの開催）
3. 障害者の地域生活支援（レスパイト支援、相談など）
4. 資金作り活動（手作り、バザーへの参加、イベントの検討実施）
5. 総会、学習会（講演会、見学会、定例のミニ学習会）などが主な活動です。

事務的には、多少煩雑なことも増えますが、そのぶん会員・賛助会員の皆さんの活動が社会性をもったものとして認知されていきます。「無理なく長く…」は変わらずに。



めがねのこえ

この前 地域のバリアフリーを考える会の勉強会がありました。

コミュニティーバスという名前を知っていますか？普通の路線バスの通らない 住宅街などを回って 住む人が便利に使える小さなバスを走らせようという活動をしているグループの試運転の報告がありました。菊名から大倉山 新横浜の病院などをまわって 駅まで出にくいお年寄りなどに とても便利そうです。

その他に 子育てグループの体験や 障害者の意見、 細い道や坂道で車が入れないところなど 家から出にくい高齢者を 介助して車に乗せる移動サービスをはじめた人達の 報告もありました。

子育てグループの人たちは ベビーカーで街を歩いたり バスに乗ったり 駅に行ったり トイレを見たりして そのようすを報告していました。

赤ちゃんの時の事は 小さな段差や 歩道の状態のことや 不便なトイレのことなど 障害者たちがずーと言ってきたことと同じだとおもいました。

しばらくして大きくなると みんな一人で歩いて元気に動き 勉強したり働いたりします。でも もっとずっと時間がたつと、皆どこかに障害が出て つまづきやすくなったり 耳が遠くなったり 家から出にくくなったり 介助が必要になったりします。 元気なお年よりもたくさんいるけれど どこか不自由になとこを持つ人も多いのだと思います。

いま 私は障害者で不自由な状態がずーと続いているのですが 「結局は同じなのかな」と思いました。

だから 皆ふれあいながら 助け合いながら暮らすのがいいのかな と思います。

私は いま自分にとって不便なことをさがしたり それをどうしたらよいかを考えたいと思います。私には あまり力は無いけれど 皆と一緒に考えながら 暮らしよい所にしたいと思います。

大原 友子

ご入会、ご継続 ありがとうございます

《賛助会員》

[敬称略]

菊池トキ子 土井文江 永綱美都子 高松静子

(17年11月26日現在)

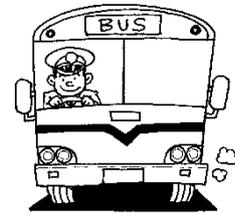


今月のよつばホーム

よつばホーム

先日、新田中学校の文化祭に出かけてきました。よつばホームの外出で路線バスを利用するのは初めてだったので、スタッフは少し不安と緊張もありましたが（私だけか）、運転手さんの協力もあり、車椅子3台スムーズに乗車できました。バスの中での様子は、乗り慣れた次郎さんと勢津子さんはとても落ち着いて乗車。藤田さんはバスの中央をキープし、堂々と乗車。花岡さんは楽しそうにずっと笑顔で、降りる前にはしっかりと降車ボタンを押してくれました。

現地に到着し、タクシー組の第2の阿部さんと宏くと合流し、会場内を見学。会場のスタッフの方々に親切に声をかけていただき、みんなとても楽しく過ごせました。帰り道は、とても良く晴れていたため、よつば組はみんなで新田中学校から歩いて帰りました。途中でジュース飲みながら休憩し、色々おしゃべりもしながら、約1時間半かけて無事よつばホームに到着。交通機関を利用したり、地域のイベントに参加したことで、入居者もスタッフもとても良い経験が出来たと思います。



第2よつばホーム

11月は第2よつばホーム 富岡 章子さん、大原 友子さんの二人が誕生日でした。夕食を食べ終わると、お待ちかね！冷蔵庫に冷やしてあったバースデーケーキの登場です。誰よりも早くに食べ終わりケーキが出てくるのを待っていた阿部さんは大喜び。ケーキにろうそくを立て、リビングの照明を少し暗くして……
部屋が暗くなり宏さんも何が始まるのだろうと何だか緊張気味

♪Happy Birthday しょうこさ～ん♪

♪Happy Birthday ゆうこさ～ん♪ 『おめでとう！！』

やっぱり、甘いものは別腹ですね。記念撮影も忘れずに

11月は誕生日を祝う日（ケーキを食べる日！？）が2週続けてありました。来月はクリスマスケーキですね。その次は宏さんの誕生日（2月）に食べて…とケーキが続きます。しかし、この後は阿部さんの誕生日（7月）までありません。

ケーキの話しばかりになってしまいましたが、第2よつばでは、このような感じで入居者4名の誕生日を祝っています。